

# IMF サーベイ

世界経済見通し

## IMF、世界的な回復を鈍化させる リスクの高まりを警戒

IMF サーベイ・オンライン

2012年10月9日



米国の工場プラントでの製造工程：米国の「財政の壁」に関する懸念は依然として経済見通しに暗い影を落としている（写真：Kevin G. Hall/MCT）

- IMF、今年の世界経済成長率の見通しを **3.3%**と下方修正
- 世界貿易の低迷が新興市場および途上国・地域に打撃を与えている
- ユーロ圏を覆う暗雲および米国の「財政の崖」が取り除かれれば、見通しは改善する可能性がある

国際通貨基金（IMF）は、世界経済が数カ月前よりも先行き不透明な状況に陥っており、見通しは更に悪化しリスクが高まっていると指摘した。IMFは、世界経済の成長率の見通しで、総合して、今年の成長率を **3.3%**に下方修正するとともに、**2013年**は **3.6%**と依然として低迷するとの見通しを示している。

2012年 IMF・世界銀行年次総会に先立ち東京で発表された最新の *世界経済見通し* で、IMFは、支出の削減および依然として脆弱な金融システムが見通しの重しとなり、先進国・地域の今年の成長率を **1.3%**と予測している。なお、昨年は **1.6%**、**2010年**は **3.0%**だった。

新興市場および途上国・地域の成長率は、7月と4月に発表された見通しを **5.3%**に下方修正した。昨年は **6.2%**だった。中国、インド、ロシア、ブラジルといった主要新興市場国は、成長が鈍化する見通しである。世界貿易量の伸び率は、昨年の **5.8%**、**2010年**の **12.6%**から、今年は **3.2%**に後退する見込みである。

IMF チーフエコノミストのオリビエ・ブランシャール氏は、「先進国・地域の低成長と不確実性が、貿易と金融の経路を通じて新興市場および途上国・地域に影響を及ぼし、これらの国や地域内の弱さをめぐる問題を悪化させている」と述べた。

### 東京で開催される年次総会

注目を集めた同見通しの発表を皮切りに、充実したイベントが数多く開かれる [世界銀行・IMF年次総会](#) が開催される。1週間に渡り東京で開かれるこの総会では、**10,000**人を超える各国の中央銀行総裁、財務・開発大臣、民間セクターの幹部、学会の代表およびジャーナリストが一堂に介し、世界経済に関連する問題について協議する。また、金融セクターに関する [国際金融安定性報告書](#) および財政状況を分析する [財政モニター](#) の二つの主要な経済評価も発表される。

IMFは、同見通しは、欧州の政策立案者がユーロ圏危機をコントロールし、米国の政策立案者が「財政の崖」に対処しかつ増税や歳出削減の自動的発動を回避するという、二つの極めて重

要な政策上の仮定に基づいていると説明した。いずれの問題でも対処に失敗すれば、成長見通しは遥かに悪化する可能性がある。

同見通しでは、先進国・地域は引き続き金融政策で下支えを行うとの予測を示している。主要中央銀行は、最近債券の購入並びに金利を低水準に保つための新たなプログラムを開始した。しかしながら、世界の金融システムは脆弱なままであり、先進国・地域が歳出を抑制する取り組みは、必要ではあるものの、回復力を低下させた。

## 地域別見通し

主要先進国では回復がもたつくが、多くの新興市場および途上国・地域ではかなり健全な水準での成長が継続する見込みである。主要指標は経済の大幅な加速を示してはいないが、ユーロ圏の政策立案者による措置および米国連邦準備制度理事会による緩和を受けて、最近になり金融環境が改善した、と IMF は述べた。

- **米国**の成長率は、今年は平均で **2.2%**となる見込みである。実質 GDP は、**2012**年の後期に約 **1.5%**拡大し、**2013**年後半には **2.75%**に上昇するだろう。家計の脆弱なバランスシートと信認、比較的厳しい金融情勢、および財政健全化の継続が力強い成長への障害となっている。
- **ユーロ圏**の実質 GDP は **2012**年、全体で **0.4%**、後期は約 **0.75%**（年率ベース）低下する見込みである。財政削減の減少と、**2013**年後半の金融状況の更なる改善を支援する国内およびユーロ圏レベルの政策とともに、実質 GDP は **2013**年前期は横ばいで後期に約 **1%**拡大すると予測されている。ユーロ圏「**中核**」国の経済は **2012**～**2013**年を通して低いプラス成長が見込まれる。ほとんどのユーロ圏「**周縁**」国経済は、緊縮財政政策や金融情勢に抑制されるため、**2012**年に急激な収縮に苦しみ、そして **2013**年にやっと回復に向かう可能性がある。
- **日本**の **2012**年の成長率は、**2.2%**の見込みである。震災後の復興が徐々に終了するため、成長ペースは著しく減速するであろう。実質 GDP は、**2012**年後期は停滞し **2013**年前期に約 **1%**増加する見込みである。その後、成長率は更に加速するだろう。
- 金融危機の影響を受けなかった多くの国、特に**新興市場および途上国・地域**では、ファンダメンタルズが引き続き堅調である。これらの国・地域では、高い雇用成長と強固な消費が引き続き需要を促進し、マクロ経済政策の緩和と相まって、健全な投資と成長を支えるだろう。ただし、成長率は危機前の水準には戻らない見込みである。
- **アジア途上国**の実質 GDP は、**2012**年は平均 **6.7%**、同年後半は成長ペースが加速して **7.25%**となる見込みである。主な原動力は、公共インフラプロジェクトの承認が加速され、成長の追い風となると期待される**中国**である。**インド**の見通しはいつになく不透明である。**2012**年は、前期の弱い成長と引き続き減速した投資により、実質 GDP の成長率は約 **5%**となる見込みである。しかし、外部環境とつい最近発表された様々な改革による信認の改善が、**2013**年の実質 GDP を約 **6%**まで押し上げると考えられる。

- **中東および北アフリカ**では、アラブの春以降の政治・経済移行に伴う継続的不確実性と不利な貿易条件を背景に、**石油輸入国**の経済活動が抑制され、**実質GDP成長率**は、**2012年**に約**1.25%**と低く、**2013年**にやや回復するであろう。特にリビアの回復により、**石油輸出国**の全体的な成長のペースは**2012年**に**6.5%**超に急上昇し、その後、**2013年**に約**3.75%**に戻るであろう。
- **ラテンアメリカ**の実質 GDP 成長率は、**2012 年後半**は約 **3.25%**、その後 **2013 年後半**に加速し **4.75%**となる見込みである。**ブラジル**では、**2011 年 8 月**以来 **500 ベーシス・ポイント**に相当する政策金利引き下げを含む、当面の需要を高めるためのターゲットを絞った財政措置と金融政策の緩和のため、予想加速度は高い。他の地域における経済活動のペースに関し、目立った向上は予想されない。
- **中欧および東欧**では、危機に見舞われた国での金融情勢の改善、ユーロ圏からの需要の若干の拡大、および**トルコ**での景気循環の終焉により、**2013 年後半**には成長率が **4%**に戻る見込みである。**独立国家共同体**では今年 **4.0%**の成長が見込まれるが、**ロシア**では約 **3.7%**となるだろう。
- **サブサハラ・アフリカ**では力強い成長が継続し、平均成長率は **5%以上**となる見込みである。同地域の大半の国は力強い成長を遂げているが、例外は**南アフリカ**で、欧州との強力なつながりが成長の足かせとなっている。最近、同地域の一部の食料輸入国が主要な穀物価格の世界的な急騰に打撃を受けている。